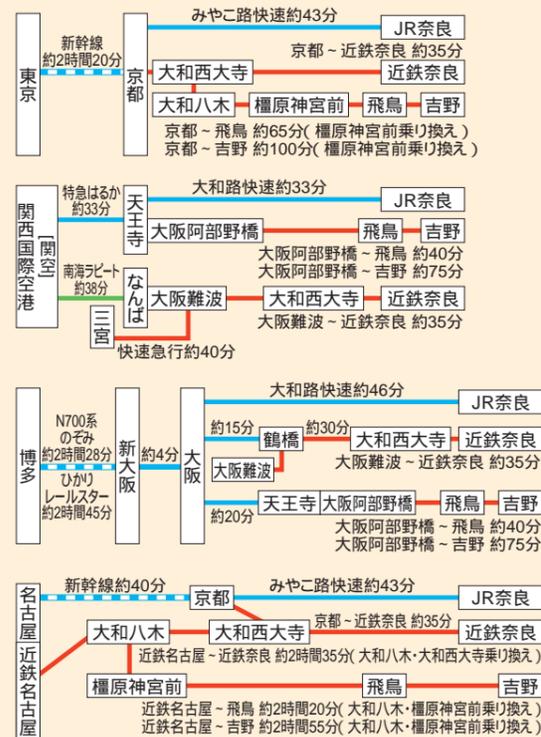


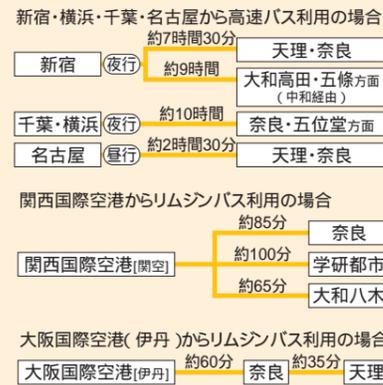


電車で

JR電車の所要時間は最速の場合です。  
近鉄電車の所要時間は特急利用の場合です。



バスで



問い合わせ先一覧

<b>観光案内所</b>	<b>飛鳥京観光協会</b>	0744-54-2362	<b>奈良交通テレフォンセンター</b>	0742-20-3100
一般財団法人奈良県ビジターズビューロー	飛鳥びとの館 飛鳥総合案内所	0744-54-3624	奈良交通定期観光バス案内所	0742-22-5263
奈良まほろば館(東京・日本橋)	吉野路観光案内処 (吉野町・東吉野村・川上村・上北山村・下北山村)	0746-32-5050	奈良交通高速バス予約センター	0742-22-5110
奈良市観光センター	<b>宿泊</b>		奈良県タクシー協会	0743-57-0073
天理市観光案内所	奈良県旅館・ホテル組合	0742-22-3675	日本道路交通情報センター(奈良)	0742-34-1141
天理市トレイルセンター	<b>交通</b>			
古代大和観光案内所(橿原・桜井・高取・明日香)	近鉄旅客案内テレフォンセンター(大阪)	06-6771-3105		
桜井観光案内所	" (名古屋)	052-561-1604		
法隆寺センター	JR西日本お客様センター(京阪神地区)	0570-00-2486		
信貴山観光センター				
			<b>発行：奈良県</b>	
			〒630-8501 奈良市登大路町30	
			TEL.0742-27-8553 FAX.0742-23-0620	
			http://www.pref.nara.jp/	

写真提供：石上神宮 / 元興寺 / 霊山寺 / MOA美術館 / 株式会社シーシーフォト / 株式会社飛鳥園 / 天理大学附属天理参考館 / 読売新聞大阪本社 / 野本暉房 / 中国陝西乾陵博物館 / 中国武漢博物館 / 中国乾陵博物館 / 韓国国立慶州博物館 / 韓国国立広州博物館 / 韓国国立扶余博物館 / 独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館 / 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 / 国立大学法人東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 / 奈良市 / 奈良市教育委員会 / 社団法人奈良市観光協会 / 橿原市教育委員会 / 明日香村 / 明日香村教育委員会 / 一般財団法人奈良県ビジターズビューロー / 奈良県立万葉文化館 / 奈良県教育委員会 / 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 (順不同・敬称略)



薬師寺金堂薬師三尊像

1300年前に海を渡って来た文化を体感

歓迎!

奈良へ!

中国・韓国とのゆかり解説集

# ようこそ、中国・韓国ゆかりの地・奈良へ!



## 世界遺産 法隆寺地域の仏教建造物

日本最古の木造建築として知られる法隆寺地域の仏教建造物は、1993年に世界遺産登録されました。これらの建築物群は、韓国や中国から伝来した文化を取り入れながら、日本独自の寺院建築の様式を確立した代表例とされ、その証しが随所に見られます。

## 世界遺産 古都奈良の文化財

東大寺・興福寺・春日大社・春日山原始林・元興寺・薬師寺・唐招提寺・平城宮跡は、ひとまとまりの価値が認められ1998年に世界遺産に登録されました。奈良に都があった時代、今から1300年前に朝鮮半島や中国大陸との交流によって日本の文化が大いに発展したことを今に伝えています。

## 世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道

神道、仏教、修験道など、多様な信仰の形態を育んだ紀伊山地。3つの霊場と参詣道、そして周囲の文化的景観が2004年に世界遺産に登録されました。奈良県に位置する「吉野・大峯」は修験道の聖地で、今なお修行の行われている場もあります。

### 日本の国づくりの歴史

#### 古墳時代 (3世紀後半～7世紀末)

4世紀半ば、大和政権が成立  
この頃から古墳が造られる

538年 仏教伝来

#### 飛鳥時代 (6世紀末～710年)

593年 聖徳太子が摂政となる

607年頃 法隆寺が建てられる

607年 小野妹子を隋に派遣(遣隋使)

630年 遣唐使が始まる

645年 大化の改新

663年 白村江の戦い

668年 遣新羅使が始まる

694年 藤原京に遷都

701年 大宝律令完成

### 中国・韓国とのゆかり

中国・朝鮮半島からもたらされた宝物も多数出土。  
仏教は、インド、中国を経て百済の聖明王により伝えられる。

中国・朝鮮半島の影響を受けた仏像が安置される。  
先進国である隋・唐を目指して使節を派遣。

日本から百済に援軍を送る。

以後28回に渡り新羅へ使節を派遣。

中国の周礼の影響を受ける。

唐にならって律令制を導入。

### 中国の時代

#### 南北朝時代 (439～589年)

#### 隋 (581～618年)

#### 唐 (618～907年)

### 朝鮮半島の時代

#### 原三国時代 (紀元前108年～4世紀半ば)

#### 三国時代 (4世紀半ば～676年)

#### 統一新羅 (676年～935年)

### 日本の国づくりの歴史

#### 奈良時代 (710年～794年)

710年 平城京に遷都

752年 東大寺大仏開眼供養

754年 唐僧鑑真和上が日本に戒律を伝える

756年 正倉院が完成

757年 養老律令施行

759年 唐招提寺が完成

768年 春日大社が完成

784年 長岡京に遷都

794年 平安京に遷都

### 中国・韓国とのゆかり

唐の長安城がモデル。

大仏は百済から渡来人がもたらした技術で鑄造。開眼供養会には唐やインド、朝鮮半島の高僧が参列。

日本の求めに応じ、苦難の末、来日。

中国や朝鮮半島からもたらされた宝物も多数保管。

### 中国の時代

#### 唐 (618～907年)

### 朝鮮半島の時代

#### 統一新羅 (676年～935年)

**中国・韓国から渡来する先進の文化を受け入れ、日本古来の文化と融合させて、今日に続く日本文化の礎が築かれました。**

今から約1300年前、奈良の都・平城京が誕生しました。これより前の飛鳥時代、古墳時代から、奈良を中心にして今日まで続く日本文化の礎が築かれました。日本文化の形成については、仏教をはじめとする中国・朝鮮半島から伝わった、あるいは我が国が積極的に取り入れた文化や技術を抜きにしては語れません。古代の日本人はこれらの文化・技術を学び、単に受容するだけではなく、日本古来の文化と見事に融合させて、日本独自の文化を花咲かせました。奈良には、これらの中国・韓国とのゆかりを示す、社寺、仏像、古墳などのたくさんの遺産があります。奈良のことを知っている方も、「中国・韓国とのゆかりの地」という視点で、もう一度奈良を見つめてみませんか?きっと新しい発見があるはずです。

## コンテンツ

- 02 奈良は中国・韓国とのゆかりの地
- 04 ゆかりの名宝ガイド
- 20 ゆかりと共に訪ねる名所
- 22 ゆかりの地を巡るモデルコース
- 23 奈良県ゆかり巡りマップ
- 24 アクセス情報&お問い合わせ先

# ゆかりの名宝ガイド

奈良に今も息づく中国・韓国ゆかりの見どころガイドです。

寺院  
奈良市  
**東大寺** とうだいじ

世界遺産

中国や韓国との関係が深い奈良を代表する寺



奉先寺の盧舎那仏像(中国河南省・洛陽) 東大寺の盧舎那仏像

「奈良の大仏様」と親しまれる世界最大の金銅仏で有名なお寺。この大仏様の造立、大仏殿や南大門の建立には中国や朝鮮半島からの渡来人やその末裔が大きな役割を果たしました。

東大寺は、8世紀中頃、平城京の東に立てられた大寺院で、大仏殿(金堂)を中心に、南大門、法華堂、正倉院正倉などの多くの建物が並び立っています。本尊の盧舎那仏像(大仏)は、推定重量380t、高さ15mという世界最大の金銅仏で「奈良の大仏様」と呼ばれ親しまれています。この大仏様を安置する大仏殿も高さ48mの世界最大級の木造建築物で、世界遺産に登録されています。

行われた南大門の再建などでも南宋から多くの技術者により技術が持ち込まれました。

毎年3月には、二月堂で「お水取り」が行われます。8世紀から続く伝統行事で、約1ヶ月にも及ぶ厳しい行が行われます。これが終わると、奈良に春が来るといわれています。



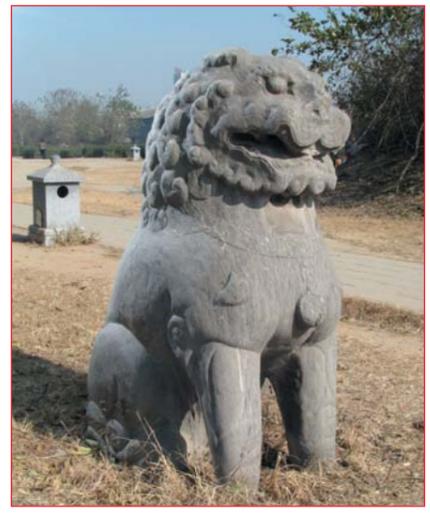
東大寺大仏殿

この大仏鑄造の総指揮を執ったのは、百済からの亡命者の孫・国中連公麻呂で、大仏殿の建立には新羅系渡来人の子孫の大工が総監督を務めるなど、東大寺の創立や大仏の造立には多くの中国や朝鮮半島からの渡来人や後裔たちが貢献しています。また13世紀に

**MORE...**  
二月堂  
境内から見下ろす奈良の風景は格別です。

## 南大門石造獅子像

なんだいもんせきぞうししぞう



中国浙江省寧波石造獅子像



東大寺南大門の石造獅子像(西方)



東大寺南大門の石造獅子像(東方)

東大寺南大門は、13世紀、僧・重源が宋に渡って学んだ建築技術を導入し、創建時の位置と規模を踏襲して再建されました。上層まで一本で通した柱に、縦横に貫を通して強固に組み上げる大仏様で造られた南大門は、幾何学的な堂々とした構造美を見せており、世界遺産にも登録されています。南大門の南側には、運慶・快慶らが制作した仏法の守護神、木造金剛力士立像が安置され、北側には大きい石造の獅子像が安置されています。(ただし、獅子像は当初、大仏殿中門に安置されていたと伝えられています。)石造獅子像は東西一対で、像高は東方便1.8m、西方便1.6m、高さ1.4mの台座に置かれています。寺伝によると、これらの石造獅子像は宋から4人の石匠が訪れ1196年に制作されています。さらに最近の研究で、材料の石も寧波から持ち込まれたものであることがわかりました。当時の東大寺の再建には、南宋からの技術者によって多くの技術が持ち込まれるなど、南宋の文化が大きく影響したと考えられています。日本と南宋の間には政府間の使節の交換はありませんでしたが、僧侶や商人といった民間人が盛んに交流していました。

## 大仏開眼供養

だいぶつかいげんくよう

大仏は、アジアの仏教圏では古くからつくられ、中国洛陽にある奉先寺の盧舎那仏は675年に完成しています。東大寺の大仏は、鑄造2年、補修5年、鍍金5年という歳月を費やして752年に完成しました。像に魂を込める「開眼供養会」には孝謙天皇、聖武上皇が臨席するなか、文武百官、僧1万人が参列しました。大導師はインドから来日した菩提傳那が、呪願師には唐から来日した唐僧道瑤が任じられ、舞楽ではベトナム僧侶が伝えた林邑楽が演じられるなど、国際色豊かに盛大に行われたことが記録されています。

その後、大仏は災害や戦火などでたびたび被害を受けますが、その都度再建されてきました。なかでも12世紀末期の戦乱では、法華堂や二月堂などを残して、大仏殿

をはじめほとんどの建物が焼け落ち、大仏も原型をとどめないほどの大きな被害を受けました。当時、宋に渡って建築や仏像彫刻の技法を学んでいた僧侶・重源は、その再建のために寄進を集めて全国を巡りました。重源の要請を受けて、来日していた宋の工人陳和卿によって大仏の頭部が復元されています。1195年に大仏が再建され、盛大に開眼供養会が行われました。その後大仏は16世紀に再び戦乱で被災し、仮の修復を施したまま100年以上露座となっていましたが、やがて僧侶公慶が寄進を集め、大仏像はそのお顔を新たに鑄造し直し、1692年に完成。大仏殿については江戸幕府の協力もあって1709年に再建されています。これが現在の大仏殿と大仏です。大仏は貴族から庶民まで時代を超えて多くの人々に愛されてきました。

## 正倉院

しょうそういん

東大寺大仏殿の北西に位置する校倉造の宝庫。仏教を中心に平和な世を求めた聖武天皇の遺愛の品やシルクロードの文物など、8世紀の遺宝として有名な正倉院宝物が収蔵されています(現在は新宝庫で保存)。正倉院宝物は非公開ですが毎年秋に奈良国立博物館で開催される「正倉院展」で宝物の一部が公開されています。(P18参照)



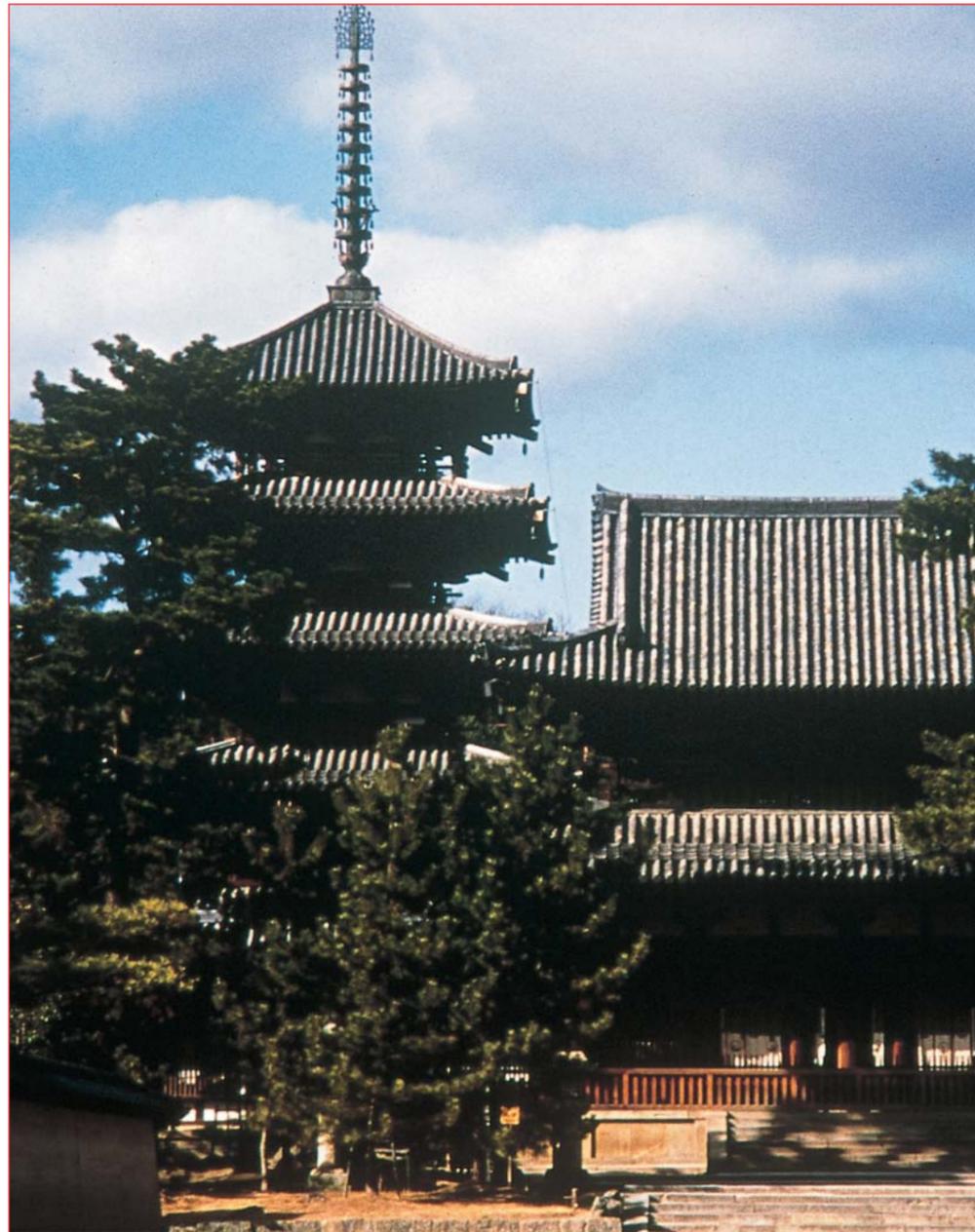
正倉院正倉

**基本情報**  
奈良市雑司町406-1 0742-22-5511(東大寺) 大仏殿、法華堂(三月堂)、戒壇堂 7:30~17:30(4月~9月)、7:30~17:00(10月)、8:00~16:30(11月~2月)、8:00~17:00(3月) 年中無休 各500円(大仏殿、法華堂 三月堂、戒壇堂) JR奈良駅1、2番乗り場、又は近鉄奈良駅2及び4(一部)番乗り場から発車するバスで「大仏殿春日大社前」下車、徒歩8分。  
公開情報 / 大仏(大仏殿)・南大門石造獅子像(南大門)は、いずれも一般公開(大仏殿は拝観料必要)

**立ち寄りガイド**  
ぶつぞうしゃしんギャラリー あすかえん  
**仏像写真ギャラリー 飛鳥園**  
奈良の著名な写真家による仏像や寺社の建築、風景等の写真を一般公開するギャラリー。庭園を望む茅葺きの別館では、企画展や仏像講座も催されます。  
奈良市登大路町59  
0742-22-5883  
東大寺より徒歩7分



世界最古の木造建造物にも中国・韓国とのゆかりが



法隆寺境内

聖徳太子ゆかりの寺院。境内には飛鳥時代をはじめ各時代の建造物が軒を連ねています。金堂や五重塔などは世界最古の木造建造物で、日本で最初に世界遺産に登録されました。

601年、聖徳太子が斑鳩の地に斑鳩宮を建て、この近くに建立したのが法隆寺とされています。創建については、用明天皇が自らの病氣平癒のため伽藍建立を発願したが、果たせぬまま崩御したため、その遺志を継いだ推古天皇と聖徳太子が607年に像と寺をあらためて完成させたと伝えられています。670年に焼失しますが、7世紀後半から8世紀初頭にかけて西院が再建されました。金堂・五重塔・中門・廻廊は優れた意匠を持つ世界最古の木造建造物です。現在、日本には8世紀以前に建立された木造の歴史的建造物が28棟現存しますが、このうち10棟が法隆寺に所在し、寺院の七伽藍すべてが国宝に指定されているのは法隆寺だけです。

MORE...

**夢殿**  
八角堂のなかには聖徳太子像と伝えられる救世観音を祀っています。

金堂釈迦三尊像



如来三尊像(中国・北魏) 釈迦三尊像

金堂の須弥壇中央に安置される釈迦三尊像は、仏教が百済から日本に伝来して初めて造られた仏像の一つです。朝鮮半島から渡来した鞍作止利により作られました。光背の銘文によると、聖徳太子の母である穴穂部間人皇女が崩し、翌年には聖徳太子も病に倒れたため、623年に后と王子、諸臣が発願して等身大の仏像を造らせたとあります。

この時代には多様な彫刻様式がありましたが、主流を占めたのが止利様式と呼ばれるもので、中国北魏の仏像様式の影響を強く受けています。「型が平面的で浮彫的な表現で奥行きがなく正面観照を重視している」「分厚い表現の衣文や服飾が左右対称である」「楕円形の面長の顔でアーモンド型の目を持ち、笑みを浮かべる口元と表情をしている」「抽象化した衣文と表懸座としている」「頸が円筒型で長く三道が表現されていない」などの特徴があります。この様式は高句麗と百済を経て日本に伝来したと考えられています。

こんどうしゃかさんぞんぞう

金堂壁画

こんどうへきが

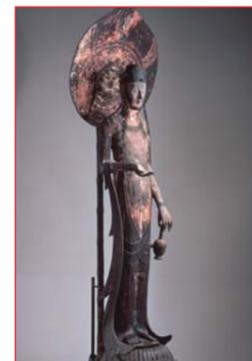


アジャンタ石窟寺院壁画(インド) 莫高窟壁画(中国甘肃省敦煌市) 金堂壁画

金堂には、外陣の壁画12面、内陣小壁の飛天の壁画20面、外陣小壁の山中羅漢図18面が描かれていました。このうち外陣の壁画と小壁の羅漢図は1949年の火災で焼損してしまいました。寺院の中心的な建造物の壁面に絵画を描くことはアジャンタ(インド)や敦煌(中国)の石窟寺院にその起源が見られます。法隆寺の壁画も色使いや装の透明表現など、インド・中国の文化の影響を受けています。

百済観音像

くだらかんのんぞう



百済観音像

法隆寺に残る7世紀頃の古い仏像のなかで有名なのが「百済観音」です。樟で作られた木彫りで、年月を経て顔の表情は見えにくいのですが、長い手足と気品ある姿で人気があります。この時代の仏像の多くは平面的ですが、百済観音像は横から見られることも想定して作られ、立体的で奥が深くほっそりした姿は神秘的で独特です。どこで作られたのか解明されておらず、国内で作られた可能性も高いのですが、百済観音という名前は当時の日本と百済の友好関係を反映した美しい呼び名といえるでしょう。

基本情報

奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺山内1-1 0745-75-2555(法隆寺) 8:00~17:00(2/22~11/3)、8:00~16:30(11/4~2/21) 年中無休 1000円 JR法隆寺駅から徒歩で「法隆寺門前」下車すぐ。

公開情報 / 金堂壁画(金堂)は1967年から1968年にかけて模写されたものであり、オリジナルは1949年の火災で焼損したため非公開。釈迦三尊像(金堂)、玉虫厨子(大宝蔵院)はいずれも一般公開(拝観料必要)。

立ち寄りガイド

ほつきじ 法起寺

法隆寺、中宮寺などと共に、聖徳太子御建立七カ寺の一つです。現存最古の三重塔があるほか、木造十一面観音菩薩立像などを安置しています。

奈良県生駒郡斑鳩町岡本1873 0745-75-5559

法隆寺より徒歩20分



韓国国宝83号金銅 弥勒菩薩半跏像

中宮寺 木造菩薩半跏像

韓国の国宝にそっくりな菩薩半跏像

中宮寺は、聖徳太子が母(用明天皇皇后)のために建立したとされ、法華寺・円照寺とともに「大和の三門跡尼寺」とも呼ばれます。本尊の国宝・木像菩薩半跏像は、飛鳥時代後半に制作されたと考えられ、同時代の最高傑作ともいわれます。寺では「如意輪観音」として伝えられますが、美術史的には「弥勒菩薩」と言われています。指を頬に当てて深い思惟を巡らせる姿から思惟像の名もあり、またスフィンクス、モナリザと並ぶ「世界三大微笑像」にも数えられています。

像の全面には黒漆塗りが施されていますが、かつてはきらびやかな彩色が施されていたことが修理の際に判明しています。衣には緑青と朱色と金箔を細く

MORE...

天寿国曼荼羅繪帳 聖徳太子の亡き後、妃橘大郎女が宮中の采女に刺繍させた繡帳が現存します。

切って線を描いた切金線が残されています。構材を組み合わせ、一木造りでは難しい繊細な表現を実現していますが、当時の日本では構で仏像を制作することがほとんどありませんでした。このため、朝鮮半島で作って日本に持ってきたといわれることもあります。韓国国立中央博物館にある新羅の弥勒菩薩半跏像と極めてよく似ており、深い関係が分かります。

基本情報

奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺北1-1-2 0745-75-2106(中宮寺) 9:00~16:30(3/21~9/30)、9:00~16:00(10/1~3/20) 年中無休 500円 JR法隆寺駅から徒歩で「中宮寺前」下車、徒歩5分。

公開情報 / 如意輪観音を一般公開(拝観料必要)。

立ち寄りガイド

ほうりんじ 法輪寺

聖徳太子の御子・山背大兄王が建立という説がある法輪寺。伽藍配置が法隆寺式で、法隆寺と類似した鎧瓦なども見つかっています。

奈良県生駒郡斑鳩町三井1570 0745 75 2686

中宮寺より徒歩15分



## 伽藍の配置は唐の新様式



薬師寺

薬師寺は8世紀に建てられたお寺で、当時の唐の新様式の影響を受け、金堂の東西に塔が配置されています。8世紀に建てられた東塔と、1981年に復原された西塔がそびえ立つ姿は圧巻です。堂内には医薬兼備の仏様である薬師三尊像、釈迦の足跡を彫った仏足石、吉祥天画像などが安置されていますが、いずれも唐の影響を大きく受けています。

薬師寺は7世紀後半、天武天皇が皇后の病氣平癒を願って薬師如来像を祀る寺を建立したのが始まりです。その後皇后の病は回復しましたが、今度は天武天皇が病となり、皇后は薬師寺の造営を続け、天皇の病氣回復を祈りました。やがて天武天皇は没し、皇后は自ら即位して持統天皇となり、薬師寺は天武天皇の菩提を弔う寺となりました。710年、平城京に都が遷ると、藤原京にあった薬師寺も平城京へ移転します。これが現在の薬師寺です。伽藍は唐の新様式を導入した新羅の影響で金

堂の左右に東西両塔を配置しています。薬師寺には、金堂本尊の薬師三尊像をはじめ、東院堂聖観音像、東塔などの文化財が残っています。これらの建造物や仏像は、藤原京にあったものを移したものが、それとも平城京で新たに造り直したものが、今も議論が続いていますが、いずれにしても7世紀後半から8世紀初頭にかけて造られた貴重な建築・彫刻です。東塔は三重塔ですが、飾り屋根である装階がついているので六重塔に見えて姿も美しいです。また、現代日本の伝統技術を結集して建てられた西塔と金堂、講堂は、かつての7～8世紀当時の姿を想定して復原されたものです。

### CHECK!

ライトアップ  
大池越しに見る夕刻から夜にかけたライトアップは幻想的でキレイです。

## 仏足石

ぶつそくせき



仏足石

仏足石は釈迦の足跡を石に線刻したもので、かつてインドで仏像が作られていなかった頃、足跡だけを表してそこに釈迦が存在すると見立てて礼拝しました。この仏足石は周囲に由緒が彫ってあり、それによると、中国人王玄策がインドのサールナート(鹿野園、釈迦が初めて説法した地)にあった原本を模刻してこれを長安にもたらし、それを日本の留学生黄文本実が長安の普光寺で転写して平城京の禪院に安置し、さらにそれを日本人貴族の文室真人智努が亡き夫人の供養のために絵師の越田安万に写させ、さらに石工に刻ませたものであるといわれています。

薬師寺の仏足石は、日本にある仏足石としては最古のものであり、日本の石造美術の中でも特筆すべき貴重なものです。遠くインドにある原本を模写して中国へ、そして日本へと様々な人々が写し伝えたとする伝承がはっきりと記されています。また、釈迦を讃える歌が刻まれた歌碑(仏足跡歌碑 国宝)もあり、これも当時のものと考えられます。

## 吉祥天画像

きちじょうてんがぞう



吉祥天画像

樹下美人図(中国新疆ウイグル自治区吐魯番 トルファン)

秘宝・吉祥天画像は唐様式の美人を描いたものであり、モデルは光明皇后といわれることもあります。麻に描かれた独立画像としては最古のもので、中国・唐時代の文化の影響を受けて築かれた平城京の寺院として、薬師寺は当時の東アジア文化水準の高さと繁栄ぶりを今に伝えています。

## 金堂薬師三尊像

こんどうやくしさんぞんぞう



金堂薬師三尊像

光背を含めると高さ3mを超える堂々たる3体の銅像です。7世紀末、天武天皇・持統天皇が藤原京に建立した薬師寺の創建当時の本尊である可能性が高いですが、この寺が8世紀初頭に平城京に移転する際に新たに制作されたという説も有力です。いずれにしても7世紀末から8世紀初頭に制作された日本の仏像彫刻の最高傑作の一つです。薬師如来は東方淨瑠璃浄土の教主で、病の苦しみを除く力や煩惱を滅ぼす力を持ち、日光・月光菩薩を従えています。中央の薬師如来の台座には、葡萄唐草文様や玄武・白虎・朱雀・青龍の四神、それに縮れ毛の人物像などが彫刻され、中国やペルシアの影響を受けて造られたことがわかります。左右の日光菩薩、月光菩薩の腰をひねって立つ姿も優美で、中国初唐文化の若々しい様式の影響が見られるといわれています。

金銅(銅と錫の合金)で鑄造され、その後何度も火災に遭って金箔がはがれて黒光りしています。ただし、三体とも光背は焼失後、新たに作られたものです。なお、金堂の東側に建つ東院堂の聖観音菩薩立像も同じ時代、同じ形式の名作です。高さは薬師三尊より小さく、約188cmの等身大の像です。また、この寺の宗派法相宗の開祖で唐の高僧である慈恩大師窺基の肖像画(国宝)も秘蔵されていて、11月13日の命日には同じ法相宗寺院の興福寺と隔年で慈恩会という法要が執り行われ、肖像画はその時に公開されます。

### 基本情報

奈良市西ノ京町457 0742-33-6001 8:30～17:00 無休 500円(通常時)  
 玄奘三蔵院伽藍公開期間中は800円(平成22年度は平城遷都1300年を記念して通常公開。) 近鉄西ノ京駅下車すぐ 公開情報/金堂薬師三尊像(金堂)、  
 仏足石(大講堂)を一般公開(拝観料必要)。吉祥天画像は通常非公開であるが、  
 正月の吉祥梅過会の際(1/1～1/15)に金堂薬師三尊像の前に安置されるほか、  
 薬師寺大宝蔵殿の特別開庫の時などで公開されることがある。

### 立ち寄りガイド

がんこいつつながや  
**がんこ一徹長屋**

大和の伝統である一刀彫、漆空間、とんぼ玉、表具、茶筌、赤膚焼を受け継いだ6人の職人による実演と展示販売を行っています。

奈良市西ノ京町215-1  
 0742-41-7011



薬師寺より徒歩5分

## 日本に仏教の戒律を伝えた唐の高僧・鑑真和上ゆかりの寺



唐招提寺金堂



鑑真和上坐像

瓊花

奈良時代に仏教の戒律を伝えるために、苦難の末に日本に渡った唐の高僧・鑑真和上が建てたお寺です。御影堂に国宝の鑑真和上坐像が安置されています。これまでに鄧小平副主席(当時)、胡錦濤主席をはじめとする多くの中国要人が訪れています。

唐招提寺は、南都六宗の一つである律宗の総本山で、759年、唐から来日した鑑真和上によって建立された戒律の道場で、金堂は当時の技術の粋を集めて建立されました。東西28m、奥行き15mの大きな建築で、現存する数少ない8世紀当時の建造物です。内部に安置される盧舎那仏、千手観音、薬師如来、四天王、梵天、帝釈天も創建当時の仏像です。金堂と内部の仏像の制作は鑑真とその弟子が指示したと考えられ、金堂の内部は唐時代の文化の面影を強く残しています。講堂は平城京の東朝集殿を移築したもので、のちに仏堂に合うよう改修が加えられていますが、平城京の建築遺構として現存唯一のもので、御影堂には鑑真和上坐像が安置されています。この像は、和上の在世中に制作されたもので、和上の風貌を写実的にあらわす8世紀の肖像彫刻の名作です。鑑真和上坐像は和上の故郷である中国揚州にも里帰りしたことがあり、中国の人々の熱烈な歓迎を受けました。また、パリでも展示されたことがあります。

### CHECK!

**鑑真和上**  
鑑真和上は仏教だけでなく、様々な文化に造詣が深く、現存する美術品がそれを物語っています。

また、唐招提寺には、揚州大明寺から送られた香呂や中国仏教協会の趙樸初会長(当時)が詠んだ詩が御影堂にあるほか、揚州から贈られた瓊花が御影堂の前に植えられ、初夏にその可憐な花を咲かせます。

1978年には鄧小平国家副主席(当時)、2008年5月には胡錦濤国家主席が訪問されたほか、これまでも多くの中国要人が日中友好の歴史を振り返ろうとして訪れています。

### 中国ゆかりコラム

## 鑑真和上

### 偉大なる和上のエピソード

聖武天皇は、授戒ができる高僧を日本に招くため、普照と栄叡を遣唐使船で唐へ派遣。二人から鑑真和上に来日を説得させます。しかし、国の宝である和上の渡航に中国国内の反対は大きく、これを押し切った渡日となりました。

### 12年間、渡日への挑戦

渡日を決意した時は既に54歳だった和上の最初の航海は743年。それから752年まで5回の失敗を繰り返し、両目の失明などの苦難の末、753年12月に無事上陸を果たしました。

### 日本で最初の肖像彫刻

御影堂に安置されている鑑真和上坐像は、弟子の忍基が作成を指揮したもので、麻布を漆で何枚も張り合わせて造形する手法がとられました。両手先は木彫りです。

### 和上は多彩な知識の持ち主だった

鑑真和上は、戒律以外にも彫刻や薬草のことに詳しく、これらの知識を多くの日本人に伝えました。

### 基本情報

奈良市五条町13-46 0742-33-7900(唐招提寺) 8:30~17:00 無休 600円 西ノ京駅下車、徒歩7分

公開情報 / 鑑真和上坐像は通常非公開。毎年6/6の鑑真和上の命日とその前後にだけ公開。

### 立ち寄りガイド

すいにてんのうりょう  
**垂仁天皇陵**

第11代にあたる垂仁天皇陵の墓です。水濠に囲まれた前方後円墳で全長は230mあります。尼ヶ辻駅からのアクセスも便利です。

奈良市尼辻西町

唐招提寺より徒歩10分



## 唐の善導大師の當麻曼荼羅



當麻寺境内

練供養会式の様子

西方極楽浄土の様子をあらわした「當麻曼荼羅」の寺として知られる當麻寺。その図柄は、唐の僧・善導大師の著に基づいて作られたとされ、極楽浄土へのあこがれから多くの信仰を集めました。

### CHECK!

**靈宝館**  
8世紀ごろの遺物から近代美術に至るまで、幅広い宝物を展示しています。

當麻寺は、612年に聖徳太子の弟・麻呂子王が河内国に創建した万法蔵院が起源と伝えられ、684年に行われた落慶法要には百済の慧灌が導師を務めたといわれています。中世以降、當麻曼荼羅を祀る曼荼羅堂が建立され、こちらが信仰の中心となっていきました。曼荼羅堂の背後にある二上山は、古くから夕日の沈む場所、すなわち死者の赴くところとされ、これが西方極楽浄土への信仰と結びついて浄土信仰の拠点の一つとなりました。

この當麻曼荼羅の由来にはさまざまな伝説があり、貴族の娘である中将姫が極楽浄土にあこがれ、観音の化身とともに蓮系で當麻曼荼羅を織り上げたという話が有名です。中将姫が命を終える時、阿彌陀如来と二十五菩薩が来迎し、観音の蓮台に乗って極楽浄土へ向かったといわれています。その様子を再現したのが、毎年5月14日に行われる練供養会式です。

### 四天王像

してんのうそう



7世紀の乾漆像で、金堂に安置されています。中央の本尊弥勒如来(7世紀の塑像)を囲むように多聞天、持国天、増長天、広目天の四体が立っています。四天王像としては、法隆寺に次いで日本で2番目に古いものです。増長天と広目天は後世の木彫の補修が目立ち、多聞天は完全に後世の木像ですが、持国天像は最もよく当時の姿をとどめています。四天王像の裾が高く、肩の布を首で巻いて両袖を長く垂らした姿は、唐の様式以前の北周・北斉の服制をとどめるといわれています。後世の補修の際にも原型を尊重したと思われ、以降に制作された唐様式の四天王像とは異なる様式で珍しいものです。

本来、四天王は東西南北の守護神ですが、7世紀の寺院はほとんどが南面しているため、四天王は実際の方角をずらして須弥壇の四隅に安置されています。例えば増長天は南方の守護神ですが、そのまま安置すると南面する本尊の真正面に立つことになり、本尊が見えにくいので南西にずらして本尊の右に立っています。これは他の奈良の寺院でも同様です。

### 當麻曼荼羅

たいまんだら



當麻曼荼羅

當麻曼荼羅は、西方極楽浄土の有様を描いたものとされ、唐の僧・善導が著した『観經四帖疏』に基づいて作画されたといわれています。その原本は、極楽の様子を表現したいと願った中将姫が、蓮の糸を使って一夜で織り上げたという伝説も残されています。

當麻寺中之坊では、曼荼羅の「絵解き」が行われています。僧侶が曼荼羅の図柄を指し示しながら、極楽浄土のすばらしさを人々に説明するもので、作家・五木寛之氏は「百寺巡礼」のなかで「絵解き」を聞いていると宗教が大眾化していくなかで「芸能」というものが生まれたのだと実感できる」と著しています。

### 基本情報

奈良県葛城市當麻1263 0745-48-2001(當麻寺中之坊) 9:00~17:00 年中無休 中之坊拝観、伽藍拝観 各500円(通常時) 近鉄當麻寺駅から徒歩15分。

公開情報 / 當麻曼荼羅(本堂)は一般公開されているものは室町時代の写本であり、原本は劣化が激しいため非公開。四天王像(金堂)は一般公開。(拝観料必要)

### 立ち寄りガイド

すもうかん けはやざ  
**相撲館 けはや座**

相撲の発祥地・葛城市にあり、日本の国技である相撲の歴史が学べます。相撲の本場所と同サイズの土俵があるほか、相撲映画も上映しています。(外国人観光客はバス提示で無料)

奈良県葛城市當麻83-1 0745-48-4611

當麻寺より徒歩10分



寺院 奈良市 **元興寺** 世界遺産

元興寺境内(極楽堂の屋根)



韓国扶余郡佳塔谷出土の瓦 元興寺瓦

**百済の技術者が造った瓦が輝く世界遺産**

もとは飛鳥に建立された法興寺(飛鳥寺)で、遷都にともない718年に平城京に新築移転され、元興寺と改称されました。「法興」も「元興」も「日本で最初に仏教が興隆した寺院」という意味です。移転当時の元興寺は、猿沢池を挟んで「北の興福寺」、「南の元興寺」と呼ばれ、広大な寺地と伽藍を有していました。伽藍の北にあった僧坊の地域が現在の極楽堂と極楽坊禅室のある場所です。極楽堂、極楽坊禅室には、百済の国王により派遣された瓦博士が造った飛鳥寺創建時の瓦が数千枚、現在でも使用されているといわれています。これらの瓦は、韓国の扶余の瓦と酷似しており、両者の深い関係がうかがい知ることができます。極楽堂、極楽坊禅室は世界遺産に登録されています。

**CHECK!**  
瓦の色  
赤褐色、黒系は飛鳥時代、白系は奈良時代、瓦色ものは昭和時代のもので。

極楽堂には、阿弥陀三尊を中心に極楽浄土の世界を描いた智光曼荼羅と呼ばれる浄土変相図が祀られています。13世紀頃からはこの智光曼荼羅を本尊とする元興寺極楽堂での浄土念仏の信仰が盛んになり、庶民の寺として親しまれました。かつての大伽藍の跡地が現在の奈良町です。

**基本情報**  
奈良市中院町11 0742-23-1377(元興寺) 9:00~17:00 年中無休  
400円 JR奈良駅から徒歩15分、近鉄奈良駅から徒歩10分。  
公開情報 / 元興寺の瓦(極楽坊):極楽坊の屋根瓦の一部として一般公開(拝観料必要)。また、「飛鳥寺の瓦」として、奈良県立橿原考古学研究所付属博物館(18ページ)でも展示。(外国人観光客は/パスポート提示で無料)

**立ち寄りガイド**  
ならしならまちこうしのいえ **奈良市ならまち格子の家** 元興寺より徒歩5分  
ならまちの伝統的な町家を再現し、昔の奈良の生活様式にふれることができます。町民の暮らしが格子の持つ役割も理解できます。  
奈良市元興寺町44 0742-23-4820

寺院 奈良市 **大安寺**



大安寺境内



癒封し笹酒祭り

**かつての大伽藍は、長安の西明寺を模して建立**

“癒封し”の祈願で知られる大安寺。その前身は、7世紀後半に藤原京に建立された国立寺院・大官大寺で、後に平城京に移転し、現在の大安寺となりました。かつては70mを超す七重塔が東西に並び、800人以上の僧侶が居住する大寺院でした。この大安寺の建立を指揮したのは、唐への留学から帰国した僧侶・道慈です。道慈は、702年に明州(寧波)に上陸し、揚州を経て長安の西明寺で16年に渡って仏教を学びました。西明寺はインドの祇園精舎を模して建てたとされる壮麗な寺院で、道慈はこの西明寺を参考にして大安寺の伽藍を建てたといわれています。全盛期には、東大寺の大仏創建に携わったインド僧・菩提曇那や中国僧の道瑠、新羅僧・審祥、ベトナム僧・仏哲など多くの外国僧が滞在したほか、著名な高僧も輩出しています。鑑真招へいに尽力した栄叡、普照もこの寺の学僧で、最澄と空海はここで学んだ後に唐に留学し、天台宗、真言宗を日本に伝えました。後に都が京都に移り、大安寺は次第に衰退しましたが、現在復興が進んでいます。現在も8世紀の木彫仏像9体を伝えています。

**CHECK!**  
聖観音立像  
頭部の首飾りは唐代長安の貴婦人が着飾った様式を伝えているといわれます。

**基本情報**  
奈良市大安寺2-18-1 0742-61-6312(大安寺) 9:00~17:00(受付終了16:00)12/31は休 400円 JR奈良駅12番乗り場、又は近鉄奈良駅12番乗り場から発車するバスで「大安寺」下車、徒歩10分。 公開情報 / 十一面観音像は10月~11月のみ公開。馬頭観音立像は3月のみ公開。(いずれも拝観料必要)。楊柳観音、聖観音、不空罽索観音、四天王はいずれも一般公開(拝観料必要)。

**立ち寄りガイド**  
ならしろうごうかんこうあんないしょ **奈良市総合観光案内所**  
近代産業遺産である旧JR奈良駅舎をリニューアルして開館。観光案内だけでなく、展示ゾーンやインターネットに接続した観光情報検索コーナーもあります。  
奈良市三条本町1082(JR奈良駅北東隣) 0742-27-2223

寺院 奈良市 **般若寺**



大源寺多重石塔(韓国慶州) 般若寺の石造十三重塔とコスモス

**南宋や新羅の影響を受けた文化財を数多く所蔵**

奈良市北部にある般若寺は、飛鳥時代に高句麗の僧・慧灌が創建したと伝えられています。1180年の南都焼き打ちで焼失しましたが、後に復興が図られます。その際、南宋の明州(寧波)から来日した石工・伊行末によって高さ14mの石造十三重塔が再建されました。また伊行末の嫡子・伊行吉が建てた2基の笠塔婆も境内にあります。伊の子孫は、寺の復興後も日本に留まり、大野寺(宇陀市)の磨崖仏や石仏など多くの作品を残しています。

この十三重塔は、新羅の真興王時代(534~576年)に建立された慶州の大源寺にある多重石塔と酷似しています。この多重石塔は、仏舎利を安置するため、

**MORE...**  
花の寺  
コスモスやアジサイなどが咲き誇るため、花の寺としても有名です。

646年に慈蔵律師が建てたとされています。伊行末という石工によって、中国・韓国の石造文化が融合され、日本で石塔が制作されたことは意義深いことです。

このほか、般若寺に伝来する薬師如来像は統一新羅の様式で制作されています。

**基本情報**  
奈良市般若寺町221 0742-22-6287 9:00~17:00 年中無休  
500円(通常時) 近鉄奈良駅より発車するバスで「般若寺」下車すぐ。  
公開情報 / 石造十三重塔を一般公開(拝観料必要)。

**立ち寄りガイド**  
きたやまじゅうはちけんこ **北山十八間戸** 般若寺より徒歩7分  
鎌倉時代に西大寺の僧・忍性により建てられた療養施設。当初は般若寺にあり、その後現在地へ。東大寺や興福寺を望む丘陵にあります。  
奈良市川上町

寺院 奈良市 **靈山寺**



靈山寺境内



バラ園

十一面観音像

**唐時代に流行した檀像彫刻の様式の十一面観音像**

736年、聖武天皇の命で行基が建立した寺です。来日したインド出身の僧・菩提曇那(婆羅門僧正)が、この地を釈迦が説法したインドの靈鷲山(靈山)に地形が似ていると思い、寺の名を靈山寺としたといわれています。菩提曇那は東大寺大仏の開眼大導師として活躍し、彼の没後、この靈山寺に墓が建てられました。1283年再建の本堂は重厚で、本尊薬師三尊像など多くの仏像が祀られています。その中の十一面観音像は、唐時代に

**CHECK!**  
行基菩薩像  
近鉄奈良駅の噴水の上にあるものと同じ行基菩薩像が安置されています。

流行した檀像彫刻の様式を模したものです。現在はバラのお寺として知られており、世界平和を願って輪廻転生をテーマに1957年開園した1200坪のバラ園には、春と秋に約200種2,000株のバラが咲き誇ります。

**基本情報**  
奈良市中町3879 0742-45-0081 11/16~3/31は10:00~16:00、4/1~11/15は9:30~16:30 年中無休 500円(通常時) 近鉄富雄駅から奈良交通バス「若草台」行き「靈山寺前」下車すぐ。  
公開情報 / 十一面観音像は非公開。ただし、10/23~11月第2日曜に特別公開。(拝観料必要)。

**立ち寄りガイド**  
やくしゆでん **薬師湯殿** 靈山寺境内  
遣隋使で有名な小野妹子の息子小野富人が薬草を栽培し、薬師如来を祀って薬草風呂を施した薬師湯殿。靈山寺の境内にあります。  
奈良市中町3879 0742-45-0081(靈山寺)

あすかから  
寺院  
明日香村  
**飛鳥寺**



飛鳥大仏 飛鳥寺境内

**百済の技術者が建立に貢献した日本初の本格寺院**

日本最初の本格的伽藍といわれるのが飛鳥寺(法興寺)です。『日本書紀』によると、587年に蘇我馬子が建立を発願し、翌年、その要請を受けた百済が仏師・僧・寺工・齋盤博士・瓦博士を派遣し、596年に蘇我氏の氏寺として完成したとあります。着工からわずか6年という短期間で完成できたのは、百済からの各種技術者の援助が背景にあると考えられています。

飛鳥寺の伽藍配置は一塔三金堂式と呼ばれるもので、塔の東、西、北に金堂を置く様式でした。この配置は、高句麗の清岩里廃寺、上五里廃寺、定陵寺で見られません。完成後、高句麗から渡来した慧慈、百済から渡来した慧聰が飛鳥寺に入り、仏教の布教活動に貢献しました。慧慈は、厩戸皇子(聖徳太子)の仏教の師でもありました。

飛鳥寺の本尊・銅造釈迦如来坐像(通称:飛鳥大仏)は、7世紀初頭に渡来系の仏師である鞍作止利により造られました。面長でアーモンド型の目が特徴的な姿から、中国の北魏の仏像様式の影響がうかがえます。

**CHECK!**  
伽藍の配置  
金堂や塔などの伽藍の配置には時代による流行があります。調べてみよう。

**基本情報**  
奈良県高市郡明日香村飛鳥682 0744-54-2126 9:00~17:15(10月~3月は~16:45) 4/7~9休 350円 近鉄橿原神宮前駅東口から赤かめバス(明日香周遊バス)で「飛鳥大仏前」下車すぐ。  
公開情報 / 釈迦如来坐像(本堂)を一般公開(拝観料必要)。

あすかみんぞくしりょうかん  
**明日香民俗資料館** 飛鳥寺より徒歩6分  
明日香村の歴史や年中行事を紹介して生活様式や民具などの資料を展示。併設の眞神荘では、CGによる鳥形石造物の解説ビデオの放映もあります。  
奈良県高市郡明日香村 0744-54-4577

おかでら  
寺院  
明日香村  
**岡寺**



奉徳寺の鐘 (韓国・慶州国立博物館) 奉徳寺の鐘 レリーフ 天人文甕(てんにんもんせん)

**韓国・奉徳寺のエミレの鐘とそっくりな天女のレリーフ**

岡寺(龍蓋寺)は、天武天皇の皇子・草壁皇子が住んだ岡宮跡に、義淵僧正が663年に創建したといわれています。義淵僧正は、当時の仏教界の最高責任者で、社会事業にも貢献した行基や華嚴宗を開いた良弁など多くの弟子を持つなど、日本の法相宗の開祖と評価する意見もあります。

岡寺の本尊は、奈良時代の如意輪観音坐像で、像高4.5mという塑像としては日本最大の仏像です。この塑像は、弘法大師がインド・中国・日本の土を練り合わせて作ったとも伝えられています。

文化財に指定された天人文甕は奈良時代のもので、しなやかな天女が浮き彫りされています。このレリーフは、韓国・奉徳寺の鐘に浮き彫りされた天女とよく似ています。この鐘は、新羅35代の景徳王が亡き父のために作りはじめ、771年に次の恵恭王により完成された大鐘です。天女のレリーフは、ガンダーラ地域が起源とされており、中国でショールなどの装飾的な天衣をまとった天女の様式が確立され、朝鮮半島や日本に影響を与えたと考えられています。

**MORE...**  
龍蓋池  
この池を荒らした龍を封じこめたという池があり、蓋にあたる石を揺らすと雨が降るといわれています。

**基本情報**  
奈良県高市郡明日香村岡806 0744-54-2007 8:00~17:00 年中無休 300円 近鉄橿原神宮前駅東口より発車するバスで「岡寺」下車、徒歩5~10分。  
公開情報 / 如意輪観音坐像を一般公開(拝観料必要)、天人文甕レリーフで、実物は京都国立博物館に寄託されている。

いぬかいまふようきねんかん  
**犬養万葉記念館** 岡寺より徒歩10分  
日本最古の歌集「万葉集」ゆかりの地を歩き、万葉風土学を提唱した犬養孝の記念館。図書約8,000冊(閲覧可能)や犬養の遺品などを展示しています。  
奈良県高市郡明日香村岡1150 0744-54-9300

かすがたいしゃのかすがわかみやおんまつり  
神事  
奈良市  
**春日大社の春日若宮おん祭**



おん祭の様子(お渡り式)



闇陵王

**基本情報**  
奈良市春日野町160 0742-22-7788(春日大社) 9:00~16:00(萬葉植物園、宝物殿) 萬葉植物園:1、2、12月の月曜日は休園、宝物殿:年4回の展示替え時は休館 参拝自由(ただし本殿特別参拝は500円、萬葉植物園は500円、宝物殿は400円) JR奈良駅からバスで「春日大社本殿前」下車すぐ。「おん祭」は、毎年12月15日~18日に実施。見学無料。

**日本的な祭事の中に、中国や朝鮮半島渡来の芸能も**

奈良では「おん祭」といい、奈良の年中行事の中で最も豪華な祭の一つです。この祭は、1136年に時の関白・藤原忠通が春日大社若宮の御神霊を春日野のお旅所に迎え、五穀豊穡を祈ったのが起源とされています。10月1日に行事がはじまり、12月15日から4日間に渡って本格的な大祭が行われます。17日の「遷幸の儀」では、深夜に御神霊を若宮からお旅所に遷す儀式があります。これは一切の灯を消した暗闇の中で、榊を持った神人が御神霊を取り囲み、不思議な声を上げながら渡る神々しい神事です。17日に行われる豪華なお渡り式は、平安時代から鎌倉、室町、江戸の各時代の衣裳をまとった人々によるパレードで、日本の歴史絵巻を目の当たりにすることができます。次いでお旅所でお旅所祭が行われ、さらに神楽や田楽、猿楽などの芸能が次々と奉納されます。一連の行事はいずれも日本的な祭事ですが、日本古来の芸能とともに中国や朝鮮半島から渡来した舞楽も演じられます。古代日本と中国や朝鮮半島との関わりが、一千年の時を超えて受け継がれていることが実感できる祭ともいえます。

**MORE...**  
藤の花  
春日大社は藤の花が美しいことでも有名で、「砂ずりの藤」の花穂は1m以上垂れ下がります。

しがなおやきゆうきよ  
**志賀直哉旧居** 春日大社より徒歩10分  
日本を代表する文豪、志賀直哉が9年間住んだ旧居。自ら設計した屋敷で、現在は奈良文化女子短期大学のセミナーハウスとなっており、一般にも公開されています。  
奈良市高畑大道町1237-2 0742-26-6490

いそのかみじんぐう  
神社  
天理市  
**石上神宮**



七支刀 石上神宮境内

**基本情報**  
奈良県天理市布留町384 0743-62-0900(石上神宮) 拝観は随時(宝物は非公開) 年中無休 無料 JR・近鉄奈良駅からバスで「石上神宮前」下車、徒歩5分。JR・近鉄天理駅から徒歩30分またはタクシー5分。  
公開情報 / 七支刀(神庫)非公開。2004年に一度、奈良国立博物館にて公開。また、奈良県立橿原考古学研究所がレプリカを作成しており、通常非公開であるが、特別企画展などで公開される場合あり。

**百済王から贈られたという「七支刀」を所蔵**

古代の豪族・物部氏の武器庫だったとされる石上神宮に伝えられてきた全長74.8cmの刀剣が「七支刀」です。刀身の両側から枝が3本ずつ互い違いに出ており、実用的な武器ではなく祭祀的なシンボルとして用いられたと考えられます。

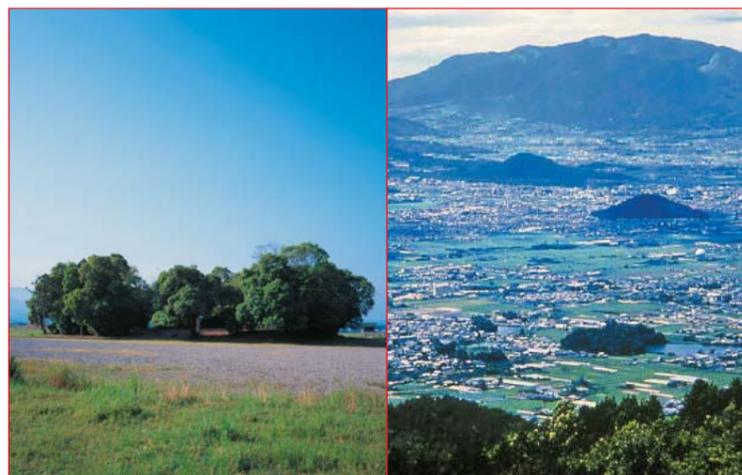
刀身の表と裏には金象嵌銘文が施され、4世紀の朝鮮半島と日本との関係を記した現存最古の文字史料として国宝に指定されています。七支刀の名称はこの銘文にも記され、『日本書紀』に記述がある「七支刀」との関連も指摘されています。表裏あわせて61文字ある銘文の判読には異説もありますが、その内容は「百済王が倭国に献上した」、あるいは「百済王が臣下である倭王に渡した」とも解釈されています。また銘文冒頭にある「泰四年」を「秦和四年」として、369年に鑄造されたと解釈するのが通説です。

日本書紀に、百済と倭国の同盟を記念して倭王へ「七支刀」と「七支鏡」が献上されたとの記述があり、これが372年にあたるため、これと同一のものと考えられています。

**MORE...**  
2枚の鉄盾  
七支刀と並ぶ石上神宮の伝世品で、古代の武器資料としても貴重です。

やまのべのみち  
**山の辺の道**  
史実に現れる日本最古の道で、沿道には古墳や古社寺、旧跡が点在します。現在はハイキングコースとして整備され、日本の自然美や古代ロマンが満喫できます。  
奈良県天理市~桜井市 0743-68-1911(天理市観光案内所) 0744-44-2377(桜井観光案内所)

# 藤原宮跡



藤原宮跡

大和三山

## 日本における初めての本格的な中国風の都城

日本では、7世紀までは、天皇が暮らす宮が1代ごとに造られていましたが、中国の都城の影響を受け、694年に藤原京という中国の長安城を基にした都市計画をもった日本最初の本格的な都城が完成しました。藤原宮は、中国の周礼が説く思想に基づき、藤原京の中心に設けられました。ほぼ1km四方の広さに朝廷の正殿である大極殿、天皇の私的領域である内裏、官吏が国事を執務する朝堂院などが設けられ、周囲を塙で囲まれていました。南の中央には正面玄関に当たる朱雀門があり、大極殿などの建物は、日本の宮殿建築では初めて中国風に瓦葺で造られました。710年に平城京に遷都されるまでの16年間、日本の首都となりました。現在は、宮跡が保全されています。

### CHECK!

**大和三山**  
宮跡から大和三山(欽傍山、耳成山、音具山)を眺望する景観は、日本を代表する歴史景観といえます。

### 立ち寄りガイド

かしはらしふじわらきょうしりょうしつ

#### 榑原市藤原京資料室

藤原京の1000分の1模型をはじめ解説パネル、古代衣装を着たマネキンなどで藤原京の築造や遷都などを分かりやすく展示しています。

奈良県榑原市鏡手町178-1  
0744-21-1114(榑原市役所 世界遺産推進課)

榑原宮跡より徒歩10分



### 基本情報

奈良県榑原市醍醐町、高殿町 0744-20-1123(榑原市観光協会) 見学自由(榑原宮跡資料室は9:00~16:30) 榑原宮跡資料室は祝日、年末年始、土日休 無料 近鉄大和八木駅よりバスで「醍醐」下車すぐ。

# 平城宮跡

## 世界遺産



朱雀門

東院庭園



唐の長安城の復元模型

平城京の復元模型

## 遷都1300年を迎える平城京は唐の長安をモデルに造営

藤原京はやがて、日本の政治の仕組みが整ってくるのに伴い、国の都としての機能を果たすには、河川や道路による交通網が不十分となり、16年後の710年、都は平城京に移りました。平城宮は唐の長安城をモデルに建設され、都市計画として松林苑という園遊地が宮城の北に張り出していたことや、京の南東隅に大きな苑池が設置された点が、長安城を基にして造られたことを如実に示しています。現在、平城京の中心であった平城宮の跡地は約130haにわたって特別史跡として保全されており、朱雀門や東院庭園などが復元されています。また、平城遷都1300年にあたる2010年には中心的な建物である大極殿の復元工事が完成する予定です。なお、平城宮跡には2008年5月に中国の胡錦涛国家主席が訪問されています。

### MORE...

**朱雀門**  
広大な敷地に聳える朱雀門は、夜はライトアップされて幻想的になります。

### 立ち寄りガイド

#### ならファミリー 屋上スカイデッキ

平城宮跡より徒歩10分

ショッピングモール「ならファミリー」の屋上は芝生が広がる美しい空間です。スカイデッキからは平城宮跡や春日山など四季の自然が望めます。

奈良市西大寺東町2-4-1 0742-33-1201



### 基本情報

奈良市佐紀町 0742-30-6752(奈良文化財研究所) 9:00~16:00(平城宮跡資料館、遺構展示館) 月曜日休(平城宮跡資料館、遺構展示館) 無料 JR奈良駅・近鉄奈良駅から1、12、14番のバスで「平城宮跡」下車すぐ。

# 古墳

## 中国や韓国と奈良とのつながりを示す有力者たちの墓

韓国・武寧王陵出土履



藤ノ木古墳出土履

古墳は前方後円形や円形、方形の高い墳丘を持つ3~7世紀前半の有力者の墓で、埋葬の仕方は時期によって大きく変化します。また、墳丘には埴輪を置くこともあります。副葬品として、鏡やガラス製品といった当時の最先端の品物が見つっています。

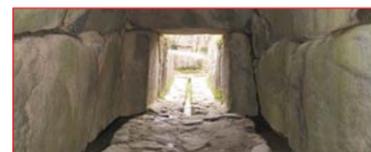
榑原市の新沢126号墳からは指輪やガラス玉が出土していて、中国あるいは朝鮮半島から来た人物が葬られたと思われる。また、斑鳩町の藤ノ木古墳からも金銅製馬具などが出土しており、天理市の東大寺山古墳出土の太刀には中国の年号「中平」(184 - 189)の銘文があります。ほかにも県内各地にさまざまな中国・韓国とのゆかりの古墳があります。

### 石舞台古墳

いしぶたいこふん



石舞台古墳外観



石舞台古墳石室内部

九政洞方形墳(韓国慶州)外観

## 百済の影響を受け、さらに発達

30数個の巨石を積み上げた玄室が露出した石舞台古墳は、飛鳥のランドマーク的存在です。その形状は方墳もしくは上円下方墳と推定され、蘇我馬子の墓ともいわれています。江戸時代に書かれた『西国三十三所名所図会』(1853年刊)などによると、当時すでに石室を覆っていた封土が失われ、天井石が露出していたことがわかります。名前の由来は、月夜にキツネが美女に化けて石の上で舞い踊ったという伝承によるともいわれますが、露出した巨大な天井石の姿から石舞台と呼ばれたと考えられます。石室内部の構造は、玄室や羨道をともなう横穴式石室です。

この石舞台古墳は、韓国・慶州の仏国寺近くにある九政洞方形墳と形状、石室内部の構造ともよく似ています。九政洞方形墳は新羅では珍しい方形の古墳で、正面中央に内部の石室への入口と通路があります。高さ約3m、一辺が9.5mで、仏国寺を造営した30数個の石の総重量は約2300トンで、天井石だけで77トンもあります。こうした横穴式石室は、百済の石室の影響を受けて発達してきたものです。

### MORE...

#### 石の重量

30数個の石の総重量は約2300トンで、天井石だけで77トンもあります。

### 基本情報

奈良県高市郡明日香村鳥庄 0744-54-4577(明日香村観光開発公社) 8:30~17:00 年中無休 250円 近鉄榑原神宮前駅東口から赤かめバス(明日香周遊バス)で「石舞台」下車すぐ。 公開情報 / すべて一般公開。(入場料必要)

### 高松塚古墳

たかまつづかこふん



永泰公主墓前室東壁侍女図(中国陝西省)

西壁女子群像図

## 唐・高句麗と日本の文化連携

高松塚古墳は日本を代表する壁画古墳で、その壁画は古墳壁画として唯一国宝に指定されています。2005年の調査で、藤原京の時代(694年~710年)のものであることが確定されました。壁画は石室の東壁・西壁・北壁・天井の4面にあり、切石の上に厚さ数mmの漆喰を塗った上に描かれています。東壁には青龍や太陽、西壁には白虎と月、さらに両方の壁にそれぞれ4人1組の男子群像と女子群像が描かれています。また北壁には玄武、天井には約9mmに切り抜いた金箔を星として朱線で結ぶ星宿が描かれています。

壁画に関しては、画材そのものが男女の風俗、四神、日月星を中心に行っていることから、高句麗の四神塚の系統とする指摘が早くから出されていましたが、

### MORE...

#### 古墳壁画

昭和47年3月21日、国内で初めて発見された極彩色の古墳壁画です。

男女群像の構図やその持ち物が、中国・唐の永泰公主墓の壁画にもよく似ています。結論としては高句麗壁画の系統か、中国壁画の系統か、明確な断定はなされていません。さらに、女性の服装の襟元を紐で結わえるなど、和風の要素がみられるといった意見もあり、当時の唐、高句麗と日本の文化の連携がみられます。

### 基本情報

奈良県高市郡明日香村平田439 0744-54-3340(高松塚壁画館) 9:00~17:00(受付終了16:30) 年末年始休 250円 近鉄飛鳥駅から徒歩10分。 公開情報 / 高松塚古墳壁画は古墳内部が保存上密閉され、見学不可。壁画館にて復元模型や模写の見学可。

## 中国・韓国とのゆかりの文物を展示する文化施設

## 奈良国立博物館

ならこくりつはくぶつかん



東大寺、興福寺、春日大社などがある奈良公園の一角に位置し、特に仏教と関わりが深い古美術品や考古遺品などの文化財の保存を図り、調査・研究をおこなうとともに、展示を通して美術の魅力と、その背景にある豊かな歴史・文化について伝えています。毎年秋の正倉院展には、中国・韓国などの影響を強く受けた天平文化の美術工芸品などの正倉院宝物が展示され、多くの方が訪れています。

## 正倉院宝物

正倉とは、8世紀に、諸官庁や各寺院に設置され租税として納められた稲や財物を収納した倉庫で、現存するものは東大寺に属していた正倉1棟だけです。このため正倉院といえばこの建物をさします。正倉院に伝わる宝物は、756年から758年に至る間に光明皇太后が東大寺盧遮那仏に献納した宝物類など約9000点を数えます。正倉院宝物の特質は、その由来や年代が明らかで、その種類が多様であり、数量が多く優品が多いことに加え、朝鮮半島、中国、ペルシアなどから直接もたらされていることがあげられます。また、意匠、文様についても朝鮮半島、中国、インド、ペルシア、東ローマなど外来の要素が色濃く、特に西方要素が多く取り入れられています。例えば、繡線鞋は、先端が花形のくつで、中国新疆のトルファンから全く同一のものが出土しており、唐製品であると考えられています。また、佐波理匙は、銅・鉛・錫の合金の金属製のスプーンで、未使用のまま伝世したもので、朝鮮半島から直接もたらされたものと考えられています。正倉院の宝物は単に日本だけにとどまらず、全アジアの諸文明を今日に伝えるものであり、世界文化史上における意義があるものなのです。正倉院宝物は非公開ですが、奈良国立博物館の「正倉院展」で毎年数十点の宝物が公開されます。

## 基本情報

奈良市登大路町50 0742-22-7771 9:30～17:00(受付終了16:30) 月曜日休(月曜日が祝日の場合は翌日) 500円(平常展) JR奈良駅1、2番乗り場、または近鉄奈良駅1、4番(一部)乗り場から発車するバスで「氷室神社・国立博物館前」下車すぐ。近鉄奈良駅から徒歩10分。



螺鈿紫檀五絃琵琶(正倉院宝物)



繡線鞋(正倉院宝物)

## 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

ならけんりつつかしはらこうこくがくけんきゅうしよふぞくはくぶつかん



奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

奈良県内の多くの遺跡から出土した考古資料を通じて、日本史の中で重要な位置を占める奈良県の歴史について理解を深めてもらえるよう、旧石器時代から中世に至るまでの考古資料が常時展示されています。この中で、中国・韓国からもたらされた技術や文化についても理解を深めてもらえる展示も行っています。また、特別展や特別陳列を年数回行っています。

## 基本情報

奈良県橿原市畝傍町50-2 0744-24-1185 9:00～17:00(受付終了16:30) 月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始休 400円(外国人観光客はパスポート提示で無料) 近鉄畝傍御陵前駅から徒歩5分、近鉄橿原神宮前駅から徒歩15分。

## 天理大学附属天理参考館

てんりだいがくふそくてんりさんこうかかん



天理大学附属天理参考館

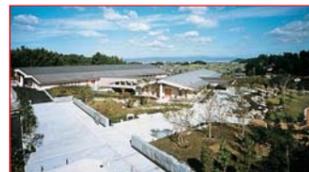
民俗学・考古学系の博物館で、主に世界各地の生活文化資料・考古美術資料を収集・研究・展示しています。また、中国・韓国の文化をながめることができる出土遺物なども展示しています。

## 基本情報

奈良県天理市守目堂町250 0743-63-8414 9:30～16:30(入館は16:00まで) 火曜日(祝日の場合は翌日) 創立記念日(4/28) 夏期(8/13～17) 年末年始(12/27～1/4)休 ただし、毎月25日～27日、4/17～19、7/26～8/4は開館。 400円 JR・近鉄天理駅から徒歩30分。

## 奈良県立万葉文化館

ならけんりつまんようぶんかかん



奈良県立万葉文化館

明日香を訪ねる前に、万葉文化館を訪れると、7～8世紀の文化や歌のことがよくわかります。漢字を中国や韓国から学び、その漢字によって、日本人は、日本語の歌を記そうとしました。そういう7～8世紀の日本人の声に、この場所で触れてみてください。

## 基本情報

奈良県高市郡明日香村飛鳥10 0744-54-1850 10:00～17:30 水曜日休(祝日の場合は翌日) 600円(外国人観光客はパスポート提示で無料) 近鉄橿原神宮前駅東口から赤かめバス(明日香周遊バス)で「万葉文化館西口」下車すぐ。

## 古来から伝わる文化[事物編]

神事や娯楽、道具として、形を変えながら今も多くが残っています。

## 伎楽

ぎがく



伎楽面 呉女(正倉院宝物)

伎楽は、古代インドの仮面劇をルーツとする演劇だったと考えられます。日本へは百済からの渡来人・味摩之が伝えたとされ、聖徳太子が少年たちを集めてこの伎楽を伝習させた桜井市谷は「日本芸能発祥の地」とされています。中世に急速に廃れましたが、その内容や音曲の一部は雅楽に取り入れられて奈良の春日大社などに伝わっています。

## 墨

すみ

墨についての最古の記録は、日本書紀に、610年、高麗王が僧曇徴に遣わし、紙墨を作ったとあります。日本に現存する最古の墨は、正倉院に収蔵される716年の銘のある舟形の墨で、表面に「新羅楊家上墨」と刻印されています。ほかにも新羅の墨工の名が刻まれたものが正倉院に伝わっており、これらは日本と新羅との国交の中で直接もたらされたものと考えられます。

## 筆

ふで

筆は、おそらく墨と同時に日本にもたらされたと思われます。正倉院には、日本最古の筆が17本保存されており、これら奈良時代の筆は、兎や鹿、狸などの毛を用いて作られています。筆の製法は、9世紀に弘法大師空海が遣唐使として唐に滞在したおりに学び、日本に伝えたといわれます。奈良は、墨と同じく、良質の「奈良筆」の産地として有名です。

## 箸

はし

箸は、中国で発明され、中国文化が波及した地域に広がりました。日本における箸の使用は、7世紀が最初とされますが、上流階級において一般的に使われるのは、奈良時代以降のことです。日本では箸に関する独自の習慣や作法が発達しました。割り箸もそのひとつです。

## 古来から伝わる文化[食編]

今も奈良をはじめ、日本で親しまれている「食」があります。

## 赤米・紫米・黒米

あかまい・むらさきまい・くろまい

古代米は赤いものが多く、さらに色素の濃い米が紫米・黒米です。現在、祝いの膳には赤飯がつきものですが、ご飯を赤く染める理由のひとつが、かつて食されていた赤米を偲んで赤く染めるようになったともいわれます。中国・雲南省の少数民族の間でも赤く染めたモチ米を食べる習慣があります。「奈良のうまいもの」に黒米カレーがあり、人気です。

## 索麵

そうめん

索麵は、こねた小麦粉を紐状にし、2本の棒で引っ張る作業をくり返して細い麺に仕上げますが、中国の福建省にまったく同じ製法で作る麺があり、日本の索麵と無関係ではないと考えられます。中国が生み出した食品文化のうち、類類は茶と並んで世界的に最も広く伝えられており、日本はいち早く受容したようです。奈良県桜井市の「三輪索麵」は全国的にも有名です。

## 饅頭

まんじゅう

饅頭を日本に伝えたのは、1349年に中国留学から帰国する僧と来日した林浄因という中国人で、奈良に居住し、饅頭作りを生業にしたといわれています。当時はみじん切りにした肉や野菜を小麦粉の皮に包んで蒸したものでした。後に塩味の餡を入れるようになり、17世紀末に今日のような甘い餡になりました。

## 烏梅

うばい

中国では熱れかけの梅の実を薫製にしたものを「烏梅」といい、咳止めなどの薬用に用いられました。これが日本にも伝えられ、薬用のほか、紅花染めの媒染剤としても使われました。有名な奈良市の月ヶ瀬梅林は、かつて染色用の烏梅を作るために植えられたもので、今もわずかに古風な烏梅の製法が伝わっています。

# ゆかりと共に訪ねる名所

こんな場所にも足を運べば  
すてきな奈良が見えます。

## 寺院 奈良市 興福寺

五重塔がそびえる奈良のシンボル



五重塔は何度も戦火に遭い、現存する高さ50.1mの塔は1426年に再建されました。境内には北円堂などの国宝が多数あり、世界文化遺産に登録されています。猿沢池から五重塔を望む景色は必見です。

**基本情報** 奈良市登大路町48 0742-22-7755 東金堂9:00～17:00、国宝館9:00～17:00 無休 東金堂300円、国宝館500円 JR奈良駅1、2、3、5、6番のバスで「東庁前」下車徒歩3分、JR奈良駅下車徒歩15分、近鉄奈良駅下車徒歩5分 <http://www.kohfukuji.com/>

世界遺産

## 公園 奈良市 奈良公園

神の遣い、鹿が群れなす芝生公園



東西4km、南北2kmの公園に美しい芝生が広がり、神の遣いとされる鹿が群れをなしています。四季折々に緑が彩り、古社寺の屋根や塔が見える景色は人々を魅了します。園内の浮見堂は憩いの場として人気です。

**基本情報** 奈良市春日野町外 0742-22-0375(奈良公園管理事務所) JR奈良駅下車徒歩15分、近鉄奈良駅下車徒歩5分 年中無休 無料 JR奈良駅下車徒歩15分、近鉄奈良駅下車徒歩5分 [http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-1713.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1713.htm)

世界遺産

## 自然 奈良市 春日山原始林

約千三百年前から変わらぬ姿を残す森



春日大社の神山として狩猟や植物の伐採が禁止され、約千二百年前から変わらぬ姿を留める春日山原始林は、もみしが紅く染まる紅葉シーズンが最も美しくなります。整備された遊歩道は若草山山頂へと続いています。

**基本情報** 奈良市春日野町 0742-22-0375(奈良公園管理事務所) 近鉄奈良駅よりバス「春日大社本殿」下車徒歩5分(春日山原始林入口)

## 神社 桜井市 大神神社

お酒の神様として崇拜



三輪山そのものをご神体とする日本最古の神社の一つで、三輪明神とも呼ばれています。祭神は、大物主神で酒の神でもあることから、醸造安全祈願のため、全国の酒造会社が参拝に訪れ、杉玉を授かります。

**基本情報** 奈良県桜井市三輪1422 0744-42-6633 拝観随時 無料 JR三輪駅下車徒歩6分 <http://www.oomiwa.or.jp/>

## 寺院 桜井市 長谷寺

150種のボタンに包まれる観音寺



本堂は広い外舞台が南に張り出た大建築で、奈良の寺院建築でも屈指の大きさです。また、本尊の十一面観世音菩薩立像は高さ10m余りで金色に輝いています。ボタンの寺としても名高いお寺です。

**基本情報** 奈良県桜井市初瀬731-1 0744-47-7001 8:30～17:00(4/1～9/30)、9:00～16:30(10/1～3/31) 近鉄長谷寺駅下車徒歩18分、JR桜井駅より桜井市コミュニティバス「長谷寺参道口」下車徒歩15分 <http://www.hasedera.or.jp/>

## 自然 御所市 葛城山

四季折々の自然が楽しめる



標高959m、ゆるやかな高原が広がる葛城山は、晴れた日には大和・河内平野が一望でき、5月にはツツジ、秋には一面ススキ野原となります。山上の約3kmの自然研究路では、バードウォッチングなどが楽しめます。

**基本情報** 奈良県御所市 0745-62-3001(御所市役所) 近鉄御所駅よりバス「葛城ロープウェイ前」下車、葛城山ロープウェイで山頂へ

## 寺院 高取町 壺阪寺

眼病にご利益がある観音様



本尊の十一面千手観音菩薩像を拝むと眼病にご利益があると伝えられています。この寺は、インドで医療の慈善事業にも取り組み、インドから大観音石像などが贈られました。

**基本情報** 奈良県高市郡高取町壺阪3 0744-52-2016(壺阪寺) 8:30～17:00 無休 600円 近鉄壺阪山駅よりバス「壺阪寺前」下車徒歩5分 <http://www.tsubosaka1300.or.jp/>

## 町並 奈良市 ならまち

奈良で最も古いといわれる「まち」



「ならまち」は奈良で最も古い町といわれ、19世紀に建てられた町家が建ち並びます。奈良町資料館では庶民の文化や暮らしぶりを見ることができます。近頃では、町家を再生したカフェなどで賑わっています。

**基本情報** 奈良市東寺林町38 0742-27-1820(ならまち振興財団) JR奈良駅・近鉄奈良駅下車徒歩10分 <http://www1.kcn.ne.jp/narazai/>

## 庭園 奈良市 吉城園

新緑と紅葉、古都に彩りを添える



興福寺院の摩尼珠院があったところとされ、大正時代に現在の建物と庭園が造られて庭園観賞や茶会に利用できるように1989年に開園。池の庭、苔の庭、茶花の庭があり、苔の庭には離れ茶室があります。

**基本情報** 奈良市登大路町60-1 0742-22-5911 9:00～17:00(入園は16:30まで) 12/28～3/19閉園 250円(庭園のみ) 近鉄奈良駅下車徒歩東へ10分、または奈良交通市内循環バス3分、「県庁東(国際奈良学セミナーハウス前)」下車徒歩2分 外国人観光客はバスポート提示で無料(庭園のみ)

## 自然 明日香村 甘樫丘

飛鳥や大和三山を望むならかな丘



藤原宮跡や明日香村が一望でき、遠くには大和三山を望む標高148mの甘樫丘。645年の大化改新の頃には蘇我蝦夷・蘇我入鹿の館があったといわれています。歌集「万葉集」に詠まれた桜などの万葉植物が植樹されています。

**基本情報** 奈良県高市郡明日香村豊浦 0744-54-2441(飛鳥管理センター) 近鉄橿原神宮駅よりバス「甘樫丘」下車徒歩10分

## 自然 曽爾村 曾爾高原

銀色のススキ野原が一面に



三重県との県境、1038mの俱留尊山の西麓に広がるならかな高原で、ハイキングスポットとして人気があります。春から夏にかけては山全体が草原に覆われ、秋にはススキが一面を覆い尽くします。

**基本情報** 奈良県宇陀郡曾爾村太良路 0745-94-2101(曾爾村観光協会) 近鉄名張駅より三重交通バス「太良路」下車徒歩60分

## 寺院 平群町 信貴山朝護孫子寺

世界一大きな張り子のトラが鎮座



信貴山中腹にあり、財宝と福德を授けると云われる福の神「毘沙門天」で親しまれています。世界一大きい張り子のトラがあり、トラのグッズは信貴山みやげとして人気です。境内に宿坊もあり、修行体験もできます。

**基本情報** 奈良県生駒郡平群町信貴山2280-1 0745-72-2277 9:00～17:00 200円(霊宝館) 10月最終日曜から2週間は300円) 近鉄信貴山下駅よりバス「信貴山」下車徒歩15分またはバス「信貴大橋」下車すぐ、JR三郷駅よりバス「信貴大橋」下車すぐ <http://www.sigisan.or.jp/>

## 町並 橿原市 今井町

江戸時代の家屋が残る町並み



今井町は、重要伝統的建造物群保存地域に指定され、約7割の家屋が江戸時代に建てられたものです。古いものと現代のものとの共存が魅力で、今西家、豊田家などは時期によって内部が見学できます。

**基本情報** 奈良県橿原市今井町 0744-20-1123(橿原市観光協会) 近鉄八木西口駅下車徒歩5分、近鉄大和八木駅下車徒歩15分

## 寺院 宇陀市 室生寺

高さ16.7mの五重塔は屋外で最小



五重塔は屋外に建つ塔としては最小のものです。釈迦如来坐像は高さ105.5cmで、9世紀仏教美術の特徴を伝える傑作です。高野山が女人禁制だった時代にも女性の参拝を許したことから「女人高野」と呼ばれています。

**基本情報** 奈良県宇陀市室生区室生78 0745-93-2003 8:00～17:00(通常)、8:00～17:00(4/11～9/30)、8:30～16:00(12/1～2/28) 無休 600円 近鉄室生口大野駅より43番バス「室生寺前」下車徒歩5分 <http://www.murouji.or.jp/>

## 自然 吉野町 吉野山

見事な桜が移り咲くピンクの絨毯



桜の名所として名高い吉野山は、4つの部分に分けられており、4月になると桜が麓から「下千本」、「中千本」、「上千本」、「奥千本」へと移り咲きます。秋には紅葉、冬になると雪に染まる景色も美しい山です。

**基本情報** 奈良県吉野郡吉野町吉野山 0746-32-3081(吉野町役場) 近鉄吉野駅より吉野ロープウェイ「千本口」駅から「吉野山」駅下車すぐ

世界遺産

# おすすめ! ゆかりの地を巡るモデルコース

奈良県内にある中国・韓国とのゆかりの地を効率良く巡るモデルコースです。



## 古都奈良のゆかりの社寺をめぐる

1日目	大阪・京都	バス	船遊寺	10分	春日大社	バス	東大寺奈良公園	10分	元興寺など	バス or 徒歩	ならまち散策	奈良市内泊	2日目	宿舎	バス or 徒歩	興福寺	10分	大安寺	バス	平城宮跡	10分	薬師寺	徒歩	唐招提寺	10分	雲山寺	バス	大阪・京都
				30分			120分		120分							60分		30分		60分		60分		60分				

## ゆかりを訪ねて魅力的な仏像に出会う

1日目	大阪・京都	バス	東大寺	10分	興福寺	バス	薬師寺	10分	唐招提寺	バス	法隆寺中宮寺	10分	橿原市内 or 井市内泊	2日目	宿舎	バス	長谷寺	10分	飛鳥寺	バス	岡寺	10分	當麻寺	バス	大阪・京都
			60分		60分		60分		60分		90分					60分		30分		40分		60分			

## ゆかりを訪ねて日本文化を体験する

1日目	大阪・京都	バス	東大寺	20分	西大寺	バス	薬師寺写経	15分	慈光院	バス	法隆寺中宮寺	20分	生駒山	バス	信貴山泊	2日目	宿舎	徒歩	信貴山朝護孫子寺	90分	法隆寺中宮寺	バス	當麻寺写仏	40分	大阪・京都
			60分		60分		120分		60分		50分		30分					90分		20分		120分			

## ゆかりを訪ねて気がつけば3つの世界遺産

1日目	大阪	バス	法隆寺中宮寺	30分	薬師寺	徒歩	唐招提寺	10分	平城宮跡	バス	春日大社	10分	東大寺奈良公園	バス	ならまち散策	奈良市内泊	2日目	宿舎	バス or 徒歩	興福寺	30分	天理参考館	バス	大神神社	20分	長谷寺	バス	飛鳥寺	10分	吉野山泊	3日目	宿舎	徒歩	吉野山	180分	壺阪寺	バス	大阪・京都
			90分		30分		30分		60分		120分		120分						30分		60分		30分		60分		120分				50分		30分		60分			

## ゆかりを訪ね、大仏や鹿だけじゃない奈良を巡る

1日目	大阪・京都	バス	信貴山朝護孫子寺	20分	法隆寺中宮寺	バス	今井町散策	40分	當麻寺	バス	橿原市内 or 井市内泊	2日目	宿舎	バス	石舞台古墳	120分	飛鳥周遊	バス	長谷寺	30分	室生寺	バス	天理市内泊	3日目	宿舎	バス	山の辺の道	180分	慈光院	バス	大阪・京都				
			60分		90分		60分		60分							30分		60分		60分							60分								

# 奈良県ゆかり巡りマップ

中国・韓国とのゆかりの名宝は、奈良県内に点在しています!



移動時間、所要時間はあくまでも目安です。